

問 公共交通の取組

6年目を迎えるのりあい交通は、これからの市の全体の公共交通を考え改善しなければならない。

今、利用が伸び悩んでいることに対する検討や具体的な取組、そして目標達成のためにどうするのか、市の考えを伺う。

答 改善策を検討しながら運行している

3年4月からの契約更新時に、予約不成立解消に重点を置き、その改善策として午前中の便を1台増車した。移送能力の向上と潜在的需要の顕在化につながり、利用者増の効果として表れている。今後も引き続き市民の声を運行内容に反映できるよう検討する。



大島 勉 議員
(創政会)

問 コロナ禍における児童・生徒への支援



コロナ禍の中、感染不安などを理由に不登校の児童・生徒が増えている。当市においても例外ではないが市で把握しているか。また、そういった児童・生徒への支援はどのようにするのか。さらに、コロナ禍の白岡の教育について、教育長から児童・生徒へのメッセージは。

答 児童・生徒の声をもとに安心な学校を

今後も基本的な感染予防対策を確実に実施し、教育活動を実施していく。また、感染したことに対する差別や中傷は絶対に許さない。児童・生徒のみなさんは感染症に関して少しでも心配なことがあれば身近な人に相談してほしい。安心して学校で学習してほしい。

問 心のケアについて

6月議会で事故対応の答弁があったが、対応期間が1週間という信じられないものであった。心的外傷ストレス障害は発症に2、3月かかるケースもあり、心のケアを初心から見直すべきだと思う。また体制作りなどやり直すべきだ。

答 関係機関等との連携を継続する

子どもたちへの心理面での支援について、学校という教育機関に未熟な部分があるということは認識している。臨床心理士、カウンセラー、関係機関などの専門的見地からの意見を伺いつつ、子どもたちへの心理面へのアプローチを図り、未然防止に努めていく。



遠藤 誠 議員
(WAKABA)

問 保育と発達障害



発達障害は早期に気が付きケアすることが大切だ。現段階では各保育所で、必ずしもケアに導く体制が整えられているとは限らない。市ではどの段階にあり、これからどのように発達障害に関する政策を進めていくのか。

答 児童の発達を支援する体制を整備する

発達障害等の疑いのある児童の状況について把握しており、支援の方法について検討している。

今後は、保護者、保育者、療育の各分野において児童の情報を共有しながら、必要に応じた療育等のサービスに接続する環境を構築していく。